

保護者様

松山市立北条北中学校
校長 池田 浩二

令和6年度学校評価結果について

学校評価に対する、2学期末に行ったアンケートにつきまして、多数の保護者の皆様に御協力をいただきありがとうございます。2月3日には、学校関係者評価委員会を開催し、集計結果をもとに学校評価委員様から多くの御意見・御評価をいただきました。これらをもとに、北条北中学校の今後の指導に生かしていきたいと考えております。

評価領域	評価指標	総合判定	対象	肯定率	評定平均	○成果 もしくは ◆改善策
教育課程・学習指導	学校は、松山の授業モデルをもとに、一人一人が分かる喜び、共に学ぶ喜びを実感できる授業を行っている。	A	教職員	100	3.7	○落ち着いた学習に取り組んでおり、話し合い活動や学習の振り返りが定着した。 ◆基礎・基本の学習の定着を図るため、反復練習や学び直しの機会を充実させていく。
			学校関係者	89	3.1	
	学校は、教科等の指導においてタブレットの活用等、効果的にICT機器を活用している。	A	教職員	100	3.9	
			学校関係者	98	3.3	
	学校は、児童生徒の学力や体力の状況を把握し、それらの充実に向け計画的に指導を行っている。	A	教職員	100	3.8	
			学校関係者	88	3.1	
人権・同和教育・生徒指導	学校は、人権・同和教育の視点に立ち、いじめや差別を許さない意識や態度を育てている。	A	教職員	100	3.7	○人権同和教育の視点に立った授業を実施し、生徒の人権意識の向上に努めた。 ◆トラブルの早期発見・解決のため「学校を明るくする調査」などを効果的に活用する。
			学校関係者	92	3.1	
	学校は、「学校のきまり」など生徒指導体制の見直しを行い、児童生徒の実態に応じた適切な指導を行っている。	A	教職員	100	3.4	
			学校関係者	95	3.2	
キャリア教育	学校は、将来に夢をもち、自分の進路や生き方について考える児童生徒を育てている。	A	教職員	100	3.7	○職業体験学習や進路学習を中心に、3年間を通じたキャリア教育の体制を整えた。 ◆地域に根差した職場体験学習を広げ、将来の生き方を考える指導の充実を図っていく。
			学校関係者	87	3.1	
安全管理	学校は、児童生徒に交通安全やけが等の防止について適切な指導を行うとともに、安全な環境づくりに努めている。	A	教職員	100	3.7	○生徒のけがや体調不良等、緊急時の対応を迅速かつ適切に行った。 ◆けがの未然防止のための取組や自転車マナーの徹底を図る。
			学校関係者	96	3.3	
保健管理	学校は、家庭と連携して個々の健康状態を確認するとともに、環境衛生の維持・改善を行い、児童生徒の健康保持・増進に努めている。	A	教職員	100	3.7	○欠席状況や健康状態をテトルで一括管理、情報収集を適切に行った。 ◆基本的生活習慣の乱れによる、不登校傾向生徒に組織として支援していく。
			学校関係者	89	3.3	
	学校は、「換気の確保」や「手指衛生等の指導」など、状況に応じた感染症対策を適切に行っている。	A	教職員	100	3.7	
			学校関係者	94	3.3	
特別支援教育	学校は、特別支援教育の視点をもって取り組み、個に応じた配慮や指導を適切に行っている。	A	教職員	100	3.8	○生徒一人一人の特性に応じた支援を進め、個別対応・個別指導が充実するよう努めた。 ◆特別支援コーディネーターを中心に、個に応じた支援を組織的に行っていく。
			学校関係者	93	3.3	
組織運営	学校は、管理職や学年主任等を中心とした組織的な対応を行っている。	B	教職員	87	3.5	○教職員が一つのチームとして機能し、様々な課題に連携して取り組んだ。 ◆情報の伝達や報告が適切に行われるようチェック体制を機能させる。
			学校関係者	90	3.1	
研修	学校は、子どもたち一人一人が分かる授業づくりや、様々な教育課題への対応のため、積極的に研修に取り組んでいる。	A	教職員	100	3.7	○研究授業が計画的に行われ、本年度も全校体制で取り組めた。 ◆教科を越えた研修を進め、本校の授業モデルがさらに機能するよう努める。
			学校関係者	88	3.2	
保護者・地域との連携・情報提供	学校は、教育活動の充実に向けて地域や保護者と連携・協力している。	A	教職員	100	3.6	○感染対策を施し、生徒・教職員の負担を軽減しながら通常の教育活動に向け工夫した。 ◆教育活動に関わる様々な方との連絡・調整を密にすることを心掛ける。
			学校関係者	89	3.2	
	学校は、学校・学年だよりやホームページ、メール等により、積極的に情報を発信している。	A	教職員	100	3.8	
			学校関係者	95	3.4	
教育環境	学校は、言語活動の充実及び展示の工夫等の環境整備に努めている。	A	教職員	100	3.6	○生徒の活躍を示す写真をホームページに掲載、随時更新し、新しい情報を提供した。 ◆情報発信だけでなく、生徒の心に響く内容や生徒の成長を促す掲示を工夫する。
			学校関係者	93	3.2	
幼保小中連携	学校は、小1プロブレムや中1ギャップの解消につなげるために関係園・校で連携し、児童生徒の学校生活に対する不安感の軽減を図っている。	A	教職員	100	3.6	○中学校生活に不安を持つ子どもや保護者の事前の見学や相談の機会を持った。 ◆中1ギャップの解消に向け、小中の情報共有を図り、個別の対応を充実させる。
			学校関係者	85	3.0	
	学校は、教育の質の向上のために関係園・校で連携し、学校間の系統性を重視した学習指導を行っている。	A	教職員	100	3.5	
			学校関係者	84	3.1	
学校は、関係園・校で連携し、児童生徒に対する教職員の理解や、児童生徒の相互理解の促進を図っている。	A	教職員	100	3.5	○入学説明会が実施でき、子ども同士、教員同士の相互理解が深まった。 ◆実地とオンラインを織り交ぜながら、負担を軽減しながら連携体制を整備していく。	
		学校関係者	84	3.1		

【総合判定】 A：肯定率の平均が90%以上 B：肯定率の平均が60%以上90%未満 C：肯定率の平均が60%未満

※ 肯定率とは、評定（％）の評定4と評定3の合計値です。